

続 櫻の木の下で (37)

阿木津 英



「未来」二〇二二年四月号の山川築さんによる時評「正統、伝統」を読んだ。角川「短歌」一月号「新春特別座談会 短歌の継承と変化」における島田修三発言の「正統な歌」「正統派」、および「現代短歌」一月号第九回現代短歌社賞選考座談会における阿木津発言中の「伝統」に関わる部分を紹介しつつ、「正統であるか否か、〈伝統〉とつながっているかどうか、〈へうた〉であるかないか……そのような判定は慎重に行わなければ、ただ相互理解を退潮させ、分断を促進することになりかねない」と結論する。

「短歌」一月号の座談会を読めばわかるように、「短歌の継承と変化」というテーマではあったが、島田修三は「正統な歌」「正統派」とは何かといった論を展開しているわけではない。ほんの数カ所、「正統」という語を使用したにすぎない。

い。座の雰囲気は「継承」とか「正統」とか、それらを問題として意識するものでは全くなかった。

わたしの出席した選考座談会でも、問題意識を共有しない虚しさを感じつつ〈伝統〉という言葉は何度も発していたのである。こういう関心はもはや雰囲気によってブロックされてしまうような、そんな昨今、「未来」四月号時評は正面から取り上げて思うところを述べてくれた。

そこで、山川築さんに手紙を書くような気持ちで、わたしも少し綴ってみた。

*

昨年の「八雁」九月号（59号）本欄で述べたように、若い頃のわたしは「伝統」などという言葉すら嫌った。女性としてこの社会に存在することの種々の「伝統」的圧迫に憤りを感じていた。昭和四十九年秋、歌を始めてすぐに岡井隆著『現代短歌入門』を買ったが、昭和五十二年には宮柊二監修『学文社 短歌教室』が刊行されている。その冒頭「形式と本質」の項で玉城徹が、短歌とは五句三十一音の日本の伝統的な詩形式である、決まった形がいやだという人は短歌には向かない、と明言する。『学文社 短歌教室』を手にとっていたら、わたしは決して短歌には近づかなかっただろう。

*

先の角川「短歌」の座談会で、「一九八〇年代の十年が僕の三十代と重なる。あの時期はフェミニズムを軸にして女性

が際立った時代でしたよね」と島田修三が回顧し、「阿木津さんとか河野さん、道浦母都子さんの京都のシンポジウムに出かけていつて聞いた記憶があります」と米川千嘉子が回顧する、その京都での春のシンポジウムに、わたしはパネリストとして参加した。準備をしているとき、そうか、わたしは近代を乗り越えるという課題を背負ったんだなと悟った瞬間のあったことを忘れない。この社会に女性として存在するという課題につながっていくと直観したのだった。

近代の価値は、自由と平等。デモクラシー。近代以降の、しかも日本においては憲法で男女平等が謳われた戦後の生まれであるからこそ、わたしはこの「伝統」の尻尾をひきずっている社会や世間にNO！を突きつけ、それを破壊したいと願う存在になった。

わたしたちの世代の鼻先にはまだ「伝統」の岩盤が肉迫していて、だから破壊しようとし、逃げようとした。だが、それはすでに岩盤ではなく風に崩れる砂礫にすぎないと誰の目にも明らかになったのが、一九九〇年代のアメリカン・グローバリズムの時代の到来だった。

*

じつは、岩盤も風に崩れる砂礫も、現象であり、幻影にすぎない。そもそも近代始まって以来、「八雁」第59号本欄で紹介したフランスの思想家トクヴィルとその再評価のよう

に、近代の価値とそのもたらすところの問題は思想的課題であつてきた。幾多の思想家によっても追求されてきた。

たとえば、ここに「うた」一九八三年十月号に掲載された中西進と玉城徹による対談「短歌は円寂しない」がある。項目を拾うと「一、近代短歌をどう位置づけるか」「二、万葉集をどんな角度から読むか」「三、短歌におけるロゴス」「四、近代短歌の困難」「五、どう脱却するか」「六、短歌形式を再考する」「七、現在歌人としての覚悟」。中西・玉城の考えてきた近代短歌批判と評価、万葉集・古今集以来の短歌の継承の問題が展開されている。わたしたちは、何度でもこの確かな手応えの大きな存在に向き合つて、思考の軌跡をたどりながら自問自答を繰り返さざるを得ない。

*

物の評価や好みで、玉城徹の良しとするものの八、九割がたが一致するので、玉城さんとわたしは同じ流れのなかにあると、ある日手紙を書いたら、わたしの体のなかに短歌の正統がすべて流れ込んでいるというような意味のお返事をいただいた。何と不遜なと吃驚したことがあるが、〈正統〉や〈伝統〉というものはそういうものだろう。言語と同じで、個人が修得するものだ。山川築さんが誤解するように、個人の外に「判定」の尺度として存在するものではない。近代の価値をくぐりぬけた〈伝統〉でありたい。〈伝統〉は個人によって発見され、個人によって創造されていくものだ。